

里山・広葉樹林再生プロジェクト第4回推進連絡会議概要

1 開催日時及び場所

日時：令和4年4月25日（月）14：00～15：00

場所：林野庁林政部会議室・福島県農林水産部会議室
（WEB会議形式による開催）

2 出席委員

委員名簿のとおり

3 会議の概要

林野庁及び福島県より議事の説明を行ったのちに意見交換。主な意見は以下のとおり。

（福島県森林組合連合会）

- ・伐採後のぼう芽枝を含めた放射性物質の動態について、森林所有者や原木生産者は将来的に原木林が伐採可能となるか非常に関心が高いため、知見の収集・情報発信をお願いしたい。
- ・将来の原木林に仕立てるため、現存木の伐採だけでなく伐採後のぼう芽整理（成林木の本数調整）までを含めた取り組みが必要である。

（福島県木材協同組合連合会）

- ・広葉樹の利用拡大にあたっては、製材コストや歩留まりに課題があることから、例えば製材可能な工場で試験的に製材し、データを収集することなどを考えている。また、昨年度都路地区において取り組んだ広葉樹利用の事例があるので、その内容について調査・分析し、今後の利用拡大に向けた方向性を検討したい。

（森林総合研究所）

- ・将来きのこ原木として利用する事業地の選定にあたっては、路網の状況のみならず将来の放射性物質濃度の見通し等も考慮する必要がある。

（林野庁）

- ・放射性物質の動態については、実証事業等で既に得られている知見も活用しつつ、今度どのようなデータを集めていくかなど、ガイドライン作成に向けた行程を整理したい。
- ・再生プランの実行体制にあたり、年間150～250haの伐採に見合う労働力を具体的に確保するため、地元の森林組合のみならず市外の林業事業者や地域住民による管理団体による取組を確実に進めていく必要がある。

（福島県）

- ・広葉樹林の再生に必要な林業労働力の確保については、森林組合等の林業事業者と地域住民による管理団体が連携して伐採作業等ができるよう促していきたい。
- ・モデル地域以外にも新たに11市町村が取組を開始し、伐採面積も150haまで拡大することができた。県としては速やかに事前調査に着手して秋に伐採が開始できるよう、市町村等をフォローしたい。

（以上）

里山・広葉樹林再生プロジェクト連絡会議委員名簿

氏 名	現 職
やなぎだ のりひさ 柳 田 範 久	福島県農林水産部次長（森林林業担当）
まつもと ひでき 松 本 秀 樹	福島県森林組合連合会代表理事専務
さとう まもる 佐 藤 守	福島県木材協同組合連合会専務理事
きのした ひとし 木 下 仁	林野庁森林整備部研究指導課長
つかだ なおこ 塚 田 直 子	林野庁林政部経営課特用林産対策室長

（敬称略）

【オブザーバー】

氏 名	現 職
しのみや よしき 篠 宮 佳 樹	国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所 戦略研究部門 震災復興・放射性物質研究拠点長

（敬称略）